

勿凝学問 382

民主主義と広告代理店

2012年5月13日
慶應義塾大学 商学部
教授 権丈善一

新学期を迎えて、「投票者の合理的無知」からはじまった民主主義と情報問題に関する一連の話のおさらいを先日しました。この問題は、市場における「消費者の完全情報」、「固定した選好」の存在を前提とした「消費者主権 consumer sovereignty」の考え方と同じロジックで考えることができます。そして、ガルブレイスの言う「依存効果」の下、需要を操作して創出する役割を担う広告代理店は、その how to を生かして、民主主義の下でも、民意を操作する役割を負うことになるのも必然。

- 「[郵政民営化・合意形成コミュニケーション戦略\(案\)](#)」

事実、日本の政党も、諸外国の例に漏れず、広告代理店と繋がりをもつようになる。さらにメディアが不勉強な場合は、政党や政治家から見れば、メディアはタダで宣伝してくれる実に好都合な広告代理店と化してしまう。

となれば・・・いわゆる「民意」とは？

民主主義と情報問題のおさらい

	市場	民主主義
仮定	消費者の完全情報 固定した選好の存在	有権者の完全情報 固定した選好の存在
公準	消費者需要の神聖不可侵性 消費者主権	民意の神聖不可侵性 投票者主権
ところが、これらの仮定は成立するのか？	ガルブレイスによる「依存効果」 (医師誘発需要仮説も同類)	ミュルダールによるデマ ゴークへの危惧
広告代理店は、なぜ存在する？	格言「宣伝しないものは存在しない」	「郵政民営化・合意形成コミュニケーション戦略(案)」

このように、考えてもすぐには何の役に立ちそうにないレベルで、学問体系の根本を疑

うところまで物事を考えるのが大学での学問——特に慶應大学の教育であり、この話のなかで、奴雁の話をした次第。

福澤諭吉著作集第五卷

語に云く、学者は国の奴雁なりと。奴雁とは群雁野に在て餌を啄むとき、其内に必ず一羽は首を揚げて四方の様子を窺ひ、不意の難に番をする者あり、之を奴雁と云ふ。学者も亦斯の如し。天下の人、夢中になりて、時勢と共に変遷する其中に、独り前後を顧み、今世の有様に注意して、以て後日の得失を論ずるものなり。故に学者の議論は現在其時に当ては功用少なく、多くは後日の利害に関するものなり。甘き今日に居て辛き後日の利害を云ふ時は、其議論必ず世人の耳に逆はざるを得ず。これがため、或は虚誕妄説の譏を招くことあれども、其妄説なるものは唯、今世の耳に触れて妄説なるのみ。其耳と其説と孰が正しきや、今日を以て裁判す可きに非ず。

そして、慶應は半学半教ゆえに、君らも学者——ということで、「[半学半教](#)」『塾』2011Autumn でもみておきなというのが、先日の講義の雑談。

講義では、これから、仮に有権者が固定した選好を持っていたとしても、それを集計することによって社会的な選好というものを導出することができるのか？ さらには経済学的に「望ましい」とか「望ましくない」という判断の基礎となる規範経済学の歴史を辿りながら、分配・再分配問題における経済学の考え方の特徴を抽出する方向にも進んでいくこととなります。

参考となる文章

- [消費者需要の経済学的意味](#)「医療経済学の潮流」『再分配政策の政治経済学Ⅲ』48-50 頁
- ミュルダールのデマゴグへの危惧「勿凝学問 170 [情報と世論と民主主義の脆弱性——公と私の社会的アンバランス考](#)」4 頁
- 勿凝学問 379 [歴史の共有と人間の感情——アメニティフォーラムで話をした「礼儀と歴史」](#)

少し距離がある話になるが

- 勿凝学問 251 [民主主義とは「最大多数の最大幸福」か、それとも「多数の専制」か？——ベンサムとジョン・スチュアート・ミルが観たそれぞれの世界](#)

付録——私が慶應に頼まれてやった仕事

- [慶應関連の仕事](#)